毎日歌壇

加藤治郎 選

愛してるラブつまり I still love 冷たい水をグラスに注ぐ 横須賀市 森久保りりか

〈評〉熱に浮かされて愛、ラブ、loveと連ねる。下句は冷水とグラスだ。この温度差が面白いのだ。メタファーと言える。

お揃いの花の香りを身に纏い石になりたい石になりたい 横浜市 大原 香花

〈評〉甘美な恋の雰囲気である。が、それに満たされない。石が冷ややかで強固だ。

それっきり帰ってこない人がいて拭いても拭いても曇った眼鏡 所沢市 神田 望

海に来て予感ばかりが強くなるあなたをあなたのカメラで撮った 花巻市 永汐 れい

新しき靴を履きたる快速の雨男から虹現れる 摂津市 石少山裏裏

鶏の葬列を見ることになる鍵のかからない部屋で眠れば 名古屋市 岩塚 光希

誰も死なない童話万歳誰も生まれない万歳 静岡市 海瀬安紀子

この星の外にもあると信じてる「白昼夢」と訳せる言葉 大津市 世田 夏雪

教室でペンキまみれのTシャツを脱ぐときわたしのアイリスアウト カナダ よだか

マニキュアをしない日日にも慣れゆきて裸の爪を恥じたりはせず 札幌市 住吉和歌子

水原紫苑 選

祈り方を思い出せない人間が魔女の表紙を抱きしめて死ぬ 豊橋市 太田 貴大

〈評〉思い出せないならば昔は祈り方を知っていたのである。魔女の表紙はこの世界の表紙かもしれない。

夢だつた風景画の人物になり切つてをります動かさないで 甲府市 村田 一広

〈評〉動かさないで、体も心も魂も。本当はいつもみんなこう言っているのだろう。

自我を消すための自我 映画館ではお静かに、静かに花になれ 横浜市 永永 キヌ

雪の異称いくつあっても敵わない目の奥に降りしきる思い出 千葉市 星野 珠青

きみだけの世界の鍵を捨てにゆくぼやけた瞳の回転木馬 札幌市 鈴木 精良

骨だけだ私はどうも音楽を背骨に隠しあなたへ贈る 東京都 藤沢 静二

染めるなら青が似合うと友は言う 湖を覗き込んだときの青 東 京 小亀 令子

夜を縫う貨物列車の轟きに老犬わずかに眼を揺らす 千葉市 芍 薬

牛載せし空のトラック門を出る品川港南食肉市場 川越市 石田浩二郎

春の日の昼寝の夢はあちこちに木香薔薇が咲いていました 堺 市 初夏みどり

伊藤一彦 選

棲み分けが出来ず戦争するヒト科 吾は散歩路熊にゆずらむ 江別市 海老澤 基

〈評〉イスラエルとパレスチナの武力衝突を胸においての作だろう。北海道の作者ならではの下の句が上の句を生かしている。

滑走路で高速道路で大きさが生死を分かつ現実を見る 東 京 富見井高志

〈評〉羽田空港や高速道路の事故ニュースに接しての歌だが、さらに深読みを誘う。

混迷の始まりにある世界にてたかが不登校そう思いたい 奈良市 久保 祐子

戦争のニュースと知るや乳飲み子は悲しき目をする テレビ消したり 東 京 福島 隆史

AIに心はあるか問うまえにヒトが心をわかっていない 春日部市 宮代 康志

独房に罪を償ふ一生を奪ひて決まる死刑判決 鹿嶋市 大熊佳世子

今最も欲しい物はと問う記者に全てと答える能登の罹災者 埼 玉 佐々木照雄

大の里初場所土俵敢闘すザンバラゆらし能登の声うけ 川越市 小畔川 霞

餅は餅屋の技術を持ちて駆けつける他府県からの救護の尊し 西宮市 神代 もと

バク転をする子の細い身体が野鳥のような力を見せる 名張市 さるすべり

米川千嘉子 選

厳冬とは能登の人らの言う言葉 ただひたすらに折れまいとする 上越市 戸枝 誠

〈評〉作者の地元も能登半島地震で被災した寒冷の地。だからこそ、能登の人々の「厳冬」の並大抵でないことを思う。

洗い物残して家族それぞれがご馳走様と悪気なく立つ 三条市 高橋 実子

〈評〉和やかな一場面に走る亀裂を作者だけが見ている。「悪気なく」がクセモノ。

暴風雪波浪警報今日も出で白鳥町の川に漁れり 鶴岡市 大沼 葉子

老いるほど柔和となりしわが顔を妻とみつめて挙手の礼せり 成田市 神郡 一成

五番目の孫が〈立っち〉をしましたよ昏睡の夫にだけ時は止み 大阪市 鈴木 雅子

思い出が哀しい色に塗り変わるジンベイザメが能登島に死に 東 京 河野多香子

補聴器の吾は姉を杖つく姉は吾を羨む九十路の姉妹 富田林市 竹内 治枝

教へ子の賀状じまひにはなたれの顔が浮かんでもすぐには消えず 神奈川 多田 宏

虫好きな五歳とうとうアリ食べたあなたの孫ねと妻のためいき 東 京 青木 公正

肥やしなど無くても育つ芸人が求められいる時代となりぬ 東 京 富見井高志

投稿規定 はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100－8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム(https://mainichi.jp/kadan-haidan/)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。

こちらから投稿できます